

実施日：2022年12月10日（土）9:00～15:00

参加者：6名

学生：2名

教職員：杉山、阪本

学外参加者：7名

■実施場所：春日山原始林（滝坂の道、春日山遊歩道南部）

■第9回 春日山の石仏

概要：春日山原始林の南端を走る滝坂の道（旧柳生街道）は、かつて奈良の僧侶たちの行場であった。江戸時代に奈良奉行により普請され今も残る石畳の道を歩きながら時折現れる石仏を鑑賞します。

- 9:00 春日大社本殿バス停（春日大社国宝殿前）
- 9:10 春日大社境内・上禰宜の道
- 9:30 飛鳥中学校前にて飛鳥中教員と合流・挨拶
- 9:40 高畑から滝坂の道へ（旧柳生街道）
- 10:00 滝坂の道入口広場にて森を感じるアクティビティ（五感で感じる）
- 10:30 滝坂の道を歩き、石仏や自然を観察しながら移動
- 12:30 地獄谷新池にて昼食
- 13:00 春日山石窟仏を鑑賞
- 13:30 南部遊歩道を下りながら紅葉を楽しむ
- 15:00 終了・遊歩道南部入口にて解散

■概要報告

春日山原始林の南端となる滝坂の道を歩き点在する石仏の鑑賞を目的にフィールドワークを実施した。滝坂の道（旧柳生街道）は、江戸時代に奈良奉行が普請したと言われる街道で今も残る石畳には、轍（わだち）が残っている。また、ところどころで現れる石仏は、鎌倉・室町期のものであることなどを解説しながら歩いた。

また、五感で森を感じる体験として、森の中で目を閉じて、光や風の方向を感じたり、耳を澄まして音を聞くアクティビティを実施した。

石仏の鑑賞だけでなく、ところどころで春日山原始林で見られる特徴的な植物や動物の食痕、倒木更新の様子やシカの影響による現在の現状・課題についても解説を行いながら歩いた。

昼食後は、地獄谷新池から春日山石窟仏を見学。他の石仏よりも古い平安時代の石仏を鑑賞したのち、天然記念物の礎石と合わせて大乘院御陵山と記載された礎石も見学し、春日山周辺が興福寺による支配があったことを確認した。

下りとなる遊歩道では、春日大社の末社である高山神社の見学・解説のほか、美しい紅葉を愛でながらゆっくりと歩いて下った。途中、紅葉の葉を集めて、葉っぱジャンケンや葉っぱのグラデーションを作り、身近な植物を使ったアクティビティも実施した。

この日は、天候も良く、風も強くなかったため気持ちの良いフィールドワークとなった。

■写真



春日大社の簡単な説明



滝坂の道の入口にて森を感じる体験



滝坂の道入口、50年前との風景の違いを確認



切り株から森が更新している様子を確認



朝日観音



地獄谷新池でナンキンハゼの実を野鳥が食べる



春日山石窟仏



天然記念物礎石（左）と大乘院の礎石（右）



春日山遊歩道では紅葉が美しかった



葉っぱを使ったアクティビティ



イロハモミジの紅葉



ムクロジがたわわに実をつけていた。